

しろくま通信



先々週から福岡県福岡市東区箱崎にある『管崎宮』について書いています。

さてまた、管崎宮に戻ります。国指定重要文化財の楼門は、管崎宮の一番見応えのある所と言えます。「敵国降伏」の扁額（へんがく）を掲げていることから伏敵門とも呼ばれています。現在の楼門は文禄 3 年（1594）筑前領主小早川隆景が建立、三間一戸入母屋造（さんけんいっこいりもやづくり）、檜皮葺（ひわだぶき）、建坪はわずか 12 坪ですが、三手先組（みてさきぐみ）といわれる枅組によって支えられた、83 坪余りの雄大な屋根を有した豪壮な建物です。

13 世紀に高麗（朝鮮半島）を占領したモンゴル帝国は、二度にわたって日本に攻め込んできました。元寇です。このとき箱崎は戦場になっています。幸いに 2 度とも台風によって退けることが出来ましたが、このことが管崎宮の神格を益すこととなります。この後も戦争のたびに「敵国降伏」が祭り上げられ、戦（いくさ）の神と言われてきましたが、さすがにこの時代には合わずスポーツの神に祭り上げられるのが現状です。プロ野球のソフトバンクホークスや、サッカーの J リーグのアビスパ福岡が祈願していることはよく知られています。



必勝祈願！

勝利！！

前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

